

2019年1月27日 VOL.42-04No.2204

◎祈祷会1/23(水)「シェ・デ」

渡邊師Ⅱテモテ3:10、14

ここはパウロが殉教前の最後の手紙。彼の関心は自分ではなく福音と教会のこと。困難な時代の到来(1)の特徴は「対象を失った愛」の姿であった。心に留めたいのは、ギリシャ語で2回繰り返されている「シェ・デ」と言う短い言葉です。「しかしあなたは」(10)、「けれどもあなたは」(14)と語り、どんなに困難で悪い時代に直面しても、世の風潮に流されず毅然と福音に生き、語るように激励したのです。たとえそこに「孤立」が待っていてもです。パウロが実際これまで歩み、生ける神に仕えてきた、大先輩の大切な教えだった。

2019年1月20日 VOL.42-03No.2203

◎祈祷会1/16(水)「祈るときは」

頼子師マタイ6:5～7

祈るときは偽善者、異邦人のようであってはいけないと勧められている。教会にあってはこの「家の奥の部屋」とは祈り会。「祈りが人に見られている聞かれているという意識は、祈りを滅ぼす。神さまが聞いておられるという意識は、祈りを益々豊かにしていく」と言われている。語彙も少なく表現力も豊かではなく同じ言葉で祈っていると思うこともあった。しかし、ただ繰り返しているわけでもなく、ことば数が多いことで聞かれると思っているわけでもない。今日この時、この方の為、このことの為、誠実に真剣に愛を持って祈りたいと思う。見て聞いておられる神の御前に。

2019年1月13日 VOL.42-02No.2202

◎祈祷会1/9(水)ピリピ1:27～30

渡邊師福音にふさわしく生きるとは？

パウロは牢獄からピリピ教会に福音についての5勧告を語りました(27)。①福音と生活(一貫性)。福音の素晴らしさを実際の生活の中で示し生きるように勧めました。②福音と堅立(安定性)。単に回心だけでなく、教理や倫理に土台すること。③福音の奮闘(戦闘性)。宣教するとともに弁証出来る者となる。④福音と共闘(一体性)。霊と心を1つにして霊的一致を保ち続けること。⑤福音と苦悩(十字架性)。信仰者にはパウロ同様に「信仰」と「苦しみ」が対となってプレゼントされるのであった。「苦しみを受けることは、真のクリスチャンのしるし……」(ボン・フェファー)

2019年1月6日 VOL.42-01No.2201

◎元旦礼拝1／1(火)「地の塩、世の光」

渡邊師マタイ5:13～16

主イエスは死海やクムラン教団の「光の子たち」を覚えられてか「地の塩、世の光」であるとおっしゃった。塩は防腐剤や素材の味付けにも使用されます。また光は物事をはっきり見せ、何かを指し示す目印として必要です。イエス様は婦人を許した後に「私は世の光です…従うものは…命の光を得る」と語られた(ヨハネ8:12)。信仰者はこのことを期待されています(Ⅱコリント4:6)。ここで「あなたがたは」と冒頭を強調され、また複数形なので教会を指している。そしてもう「…です」と断言された。家庭や職場、地域の中でこの素晴らしさを現そう。